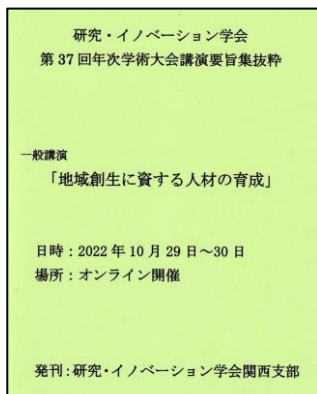


本号では、関西支部発刊の「年次学術大会 講演要旨集」と「鉄鋼業のカーボンニュートラル (CN) への取り組み」について紹介します。話題のコラムには、「稲盛哲学を学ぶ」を掲載します。

1. 『第37回年次学術大会 講演要旨集』の発刊

2022年10月に開催された年次学術大会に、関西支部は「地域創生に資する人材の育成」を主テーマとして参加いたしました。関西支部より発表のあった12件の発表者とテーマは以下の表のとおりです。

発表論文とスライドを掲載した『講演要旨集』(124ページ、カラー版、上写真)を発刊し、支部HPにも掲載していますので、ダウンロードして、是非ご一読ください。



- ・西原一嘉、三木基実、大槻眞一： 「地域創生に資する人材の育成」
- ・斉藤了文： 「工学部の学生に社会システムを理解させるー大学での授業を通じてー」
- ・神谷達夫： 「正課外学習を組み合わせた地域協働型教育研究」
- ・外池光雄： 「医工学・医療職分野の地域創生に資する人材育成」
- ・原田六次郎： 「我が社の人材育成」
- ・杉原五郎： 「地方創生に資する人材育成に係わる一考察ー都市計画コンサルタントの経験を踏まえてー」
- ・小原 亮： 「大学・高校との連携を地域づくりへと発展させて」
- ・横尾臣則： 「金属加工技術の共同研究、地域経済牽引と人材育成の推進」
- ・谷口邦彦： 「地域創生を促進する次世代・次々世代の育成ーPBLを活用した高校生へのSDGs教育ー」
- ・花川大地、花川典子： 「大学におけるIT人材育成のためのギグワークプラットフォーム」
- ・塩見忠義： 「地域創成に資する人材育成への一提案」
- ・坂本勇、榎真一： 「日本の技術教育について」

2. 『鉄鋼業のカーボンニュートラル (CN) への取り組み』(第175回研究会)

企画代表者 碓井建夫支部運営委員より、「概要説明」として、CO₂による気候温暖化の起点とされる「英国産業革命」から振り返るとともに、カーボンは鉄鋼製錬と最終製品に必要不可欠な元素であることなどの解説がありました。

日本製鉄(株)の尾藤 貴氏からは、「日本製鉄におけるCNに関する取り組み」と題し、鉄鋼プロセス、特に高炉プロセスから発生するCO₂発生メカニズムの紹介と、2021年3月公表の「日本製鉄CN2050 ゼロカーボン・スチールへの挑戦」の内容に基づき、同社のCNビジョンと現在進めている国家プロジェクト「超革新技術開発(SuperCOURSE50)」の概要(写真)ならびに技術課題について紹介されました。



国家プロジェクトによる
水素活用試験炉(君津)

東北大学名誉教授の有山達郎氏からは、「世界的視野から見た鉄鋼業のCNの論点」と題し、気候温暖化対策として世界各国は2050年にゼロカーボンなどの目標を打ち出しているが、既存の鉄鋼プロセスは炭素依存であるとの指摘がありました。先進工業国においては鉄鋼業から排出されるCO₂排出量は極めて大きい。そこで、①炭素フリーの「水素」による鉄鋼生産、②排出されるCO₂を化学製品に転換あるいは再度還元材に変える「炭素循環技術」、③「バイオマス利用」等が推進されている。一方、日本はグリーンイノベーション政策の一環として、今年度から国家プロジェクトで本格的に開発に着手したが、まだ研究開発段階である。欧州を中心としたCN対策と今後の進め方についての示唆に富む解説でした。

研究会はハイブリッド方式で実施し、鉄鋼分野の研究者・技術者も多数参加され、専門的な熱心な議論が行われました。

3. 研究会での参加者の声(感想文)紹介

①第 172 回研究会 (9 月 13 日)「アイディア商品、産学官連携」

・新商品、ヒット商品開発には、「アイディアと目利き力、閃きと運、市場ニーズのタイミング、更に金型への投資などの総合力」が重要と分かりました。

・兵庫県立大学は、金属技術のポテンシャルを生かして「金属新素材研究センター」や「はりま姫路総合医療センター」に隣接して「先端医療工学研究所」が設立され、産学連携推進と地域貢献が期待されます。

②第 173 回研究会 (9 月 26 日)「SDGs」

・三洋化成では、自社製品と SDGs の各ゴールとの関係性をしっかり考えておられ、非常に参考になった。

・自治体(堺市)の SDGs への熱心な取り組みもよくわかった。

③第 174 回研究会 (10 月 25 日)「米中対立と経済発展」

・今年は、「日中国交正常化 50 年」の時流にあった面白い内容の講演でした。

・中国経済について、視点の違うお二人の研究者からの分析結果は非常に参考になりました。

④175 回研究会 (11 月 16 日)「鉄鋼業の CN」: 前述

⑤176 回研究会 (12 月 21 日)「稲盛哲学、技術教育」: 後述

⑥177 回研究会 (1 月 24 日)「経済産業施策、ブルーオーシャンプロジェクト」

・「経済産業施策の重点と近畿経済」は新春に相応しい時機を得たご講演でした。

・更家先生のお話をお聞きし、「道徳と経済の両立」を目指して頑張ります。

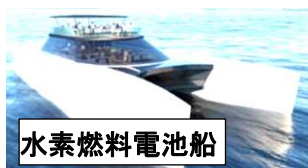


⑦178 回研究会 (2 月 7 日)「海上監視と脱炭素」

・航空機の無人化が、航空機の構造を単純化させ、用途が広がることが分かった(写真)。災害救助など多くの平和利用にも活用してほしい。



・船舶のカーボンニュートラル化燃料として重油から、水素(写真)、アンモニアへのつなぎ役として LNG 利用が進んでいることが分かった。



4. 会員からの季節便りー「品種改良した春の花」

交配した種から品種改良した新品種作りを夫婦で楽しんでいます。右写真のクリスマスローズ原種は、近所の栽培仲間から入手したものです。



クリスマスローズ原種

シクラメン実生(みしょう)は、写真下の実から生まれた子孫で、ご近所にもお分けし、喜ばれました。(会員 稲葉伸一)



シクラメン実生



5. 関西支部からのご連絡

・大槻眞一関西支部長が、研究・イノベーション学会副会長に就任されました(2022 年 11 月)。

6. 編集後記

2 年前、新型コロナ禍の中、オンライン (Zoom) で、月 1~2 回の編集会議を開催しながら試行錯誤的にスタートした支部ニュース「れんけい」も、お陰様で、第 5 号を発刊し、HP に掲載させていただくまでに成長しました。ご支援ご協力いただいた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

「会員と学会、会員間、産学官の「連携」」を目指して、更に発展させていきたいと思っています。

研究会にご参加いただいた後のご感想、会員からの季節便り、趣味のご紹介や話題のコラムへのご寄稿など、気軽にお寄せ下さい。皆様からのご意見、ご感想などを励みにして、会員間の交流や支部活動の連絡に少しでもお役に立てればと、編集委員一同願っています。

(小池)

※「読者の声」窓口: kansaiinobe.koike@gmail.com

【発行】研究・イノベーション学会関西支部
<https://jsrpim-k.jp>

【別紙】話題のコラム

「(奇稿) 稲盛哲学を学ぶ」

西原一嘉

京セラを創業し、京都賞を創設し、KDDI を設立し、JAL を再建した京セラ名誉会長の稲盛和夫さんが昨年 2022 年 8 月 24 日、90 歳で亡くなられた。

稲盛さんは創業時の苦悩の体験より、たどり着いた「心の経営」という考え方、いわゆる稲盛哲学「京セラ フィロソフィ」⁽¹⁾と独特の経営手法「アメーバ経営」により、京セラを世界一流の企業に育てあげるとともに、世界中の企業人、社会人に心の経営を説き、社会に多大の貢献をされてきた。

筆者は予てより、稲盛さんの高潔な人間性に惹かれていたところ、同窓生の元京セラ役員の塩見忠義氏から「稲盛和夫に叱られた！—38 人の学びと喜び」⁽²⁾」を紹介していただき、読んだところ、稲盛さんから直接教えを受けられた多くの方々の感激と喜びの声を知ることができた。さらに、昨年 12 月の関西支部第 176 回研究会で塩見氏に、「稲盛と歩む革新への道」のテーマで講演して頂き、稲盛さんの「心の経営」を知ることができた。



参考文献(1)



参考文献(2)

稲盛哲学については、京セラのオフィシャルサイト⁽³⁾や日経ビジネス⁽⁴⁾に詳細な紹介がされているが、筆者がこれまでに学んだ稲盛哲学の概要について、従来とは少し違った視点で、以下まとめてみた。

1) 稲盛さんは、経営上の諸問題に際し、「人間として正しいこと」を判断基準にされ、常に「動機善なりや、私心なかりしか」と自問自答し、問題解決をされてきた。これが「京セラ フィロソフィ」の原点となっている。

2) 「京セラ フィロソフィ」は、従来の社会通念、道徳を経営に取入れ、あらたな息吹を吹き込んだものである。稲盛さんの講演は全 4 章 78 項目にまとめら

れていて、1 項目ごとに稲盛さんの経験に基づく解説が加えられている。京セラ社員ばかりでなく、広く企業経営者、一般人の仕事や生き方の道標となっている。

3) 稲盛さんは経営にあたり、「考え方」の大切さを強調された。要約すると、

人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力

である。「能力」は変えられないが、「考え方」、「熱意」によって変えられる。特に、悪い考え方が少しでもあれば、考え方はマイナス、結果は“大きなマイナス”となってしまうからである。

4) 「車座コンパ」も、稲盛さんの京セラ教育と最強組織の原点です。写真はコンパの様子を示しています。



稲盛和夫と車座コンパ

稲盛さんを囲んで多くの仲間が床に直に胡坐をかいて座り、成行きを注視しています。稲盛さんは決して自分の意見を無理強いする事はありません。相手が心の底から、その気になるまで繰り返し話し込みます。これが稲盛さんの心の経営の基本です。

車座コンパのポイントは主従関係なく、誰もが同じレベルで、同じ目線で（上から目線はタブー）、相手の瞳を見て話すことにより、双方向の心と情報の交換がおこなわれることです。相手の心に寄り添うことにより心を開き、こころが繋がります。

【参考文献】

(1) 稲盛和夫：『京セラ フィロソフィ』（株）サンマーク出版、2022）

(2) 『稲盛和夫に叱られた！—38 人の学びと喜び』（出版文化社、2021）

(3) 「稲盛和夫 OFFICIAL SITE」：
<https://www.kyocera.co.jp/inamori>

(4) 「稲盛和夫カリスマの遺訓」（日経ビジネス、2022.9.12）

以上